

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月8日
【四半期会計期間】	第20期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	株式会社アルファポリス
【英訳名】	AlphaPolis Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 梶本 雄介
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号 恵比寿ガーデンプレイスタワー5F
【電話番号】	03-6277-1602
【事務連絡者氏名】	取締役兼管理本部本部長 大久保 明道
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号 恵比寿ガーデンプレイスタワー5F
【電話番号】	03-6277-0123
【事務連絡者氏名】	取締役兼管理本部本部長 大久保 明道
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第2四半期累計期間	第20期 第2四半期累計期間	第19期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年9月30日	自2019年4月1日 至2019年9月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (千円)	2,249,406	2,447,552	4,977,585
経常利益 (千円)	609,552	625,723	1,357,170
四半期(当期)純利益 (千円)	390,113	394,205	842,346
持分法を適用した場合の投資利益又は 投資損失( ) (千円)	3,513	9,717	8,395
資本金 (千円)	863,824	863,824	863,824
発行済株式総数 (株)	9,687,400	9,687,400	9,687,400
純資産額 (千円)	4,816,601	5,662,947	5,268,834
総資産額 (千円)	6,095,194	6,915,885	6,878,137
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	40.27	40.69	86.95
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	79.0	81.9	76.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	486,979	189,352	1,052,884
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	3,129	12,378	1,664
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	29,560	30,369	9,462
現金及び現金同等物の四半期末(期 末)残高 (千円)	3,672,608	4,420,963	4,213,620

回次	第19期 第2四半期会計期間	第20期 第2四半期会計期間
会計期間	自2018年7月1日 至2018年9月30日	自2019年7月1日 至2019年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	21.51	21.33

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 当社は、2018年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第2四半期累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中、各種政策の効果もあって緩やかな回復基調が続いておりますが、通商問題を巡る緊張の増大が世界経済に与える影響や中国経済の先行き、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動による影響の懸念等により、景気は依然として先行き不透明な状況で推移しております。

一方、当社が属する出版業界におきましては、引き続き厳しい状況が続いております。出版科学研究所によると、2019年上半年（1月から6月まで）の紙と電子出版を合算した推定販売金額は、前年同期比1.1%減となる7,743億円となりました。その内訳は、紙の出版物については同4.9%減となる6,371億円、電子出版については同22.0%増の1,372億円となっており、紙の出版物が落ち込んだ一方で電子出版が大幅に伸長しております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間における書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

#### ライトノベル

当第2四半期累計期間の刊行点数は98点（前年同期比9点減）となりました。各書籍の売行きにつきましては、『異世界ゆるり紀行』や『素材採取家の異世界旅行記』等の当社投稿サイト発の人気シリーズの続刊が好調に推移いたしました。また、電子書籍につきましては、引き続き親和性の高い女性向け小説を中心に販売数を伸ばし、当ジャンルにおける売上を牽引いたしました。

しかし、刊行計画の都合上、当第2四半期累計期間の刊行点数が前年同期より減少したことが影響し、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を下回る結果となりました。

#### 漫画

当第2四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る39点（前年同期比4点増）となりました。『異世界に飛ばされたおっさんは何処へ行く？』等のライトノベル人気作のコミカライズ作品が売上を伸ばしたことに加え、シリーズ累計98万部を突破した『居酒屋ぼったくり』等の既存の大型タイトルの続刊が堅調に推移いたしました。さらに、当ジャンルと親和性が高い電子書籍販売及び当社Webサイトで展開しているレンタルサービスにつきましても引き続き好調で、売上は大幅に伸ばいたしました。

結果、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を大きく上回る金額で着地いたしました。

#### 文庫

当第2四半期累計期間の刊行点数は68点（前年同期比13点減）となりました。新たなジャンル開拓を目的に開催している「キャラ文芸大賞」の受賞作の中から、『みちのく 銀山温泉 あやかしお宿の若女将になりました』、『清明さんちの不憫な大家』を刊行し、取扱いジャンルの拡大に向けた活動に取り組んでまいりました。

しかし、刊行スケジュールの関係により刊行点数は前年同期から大きく減少し、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を下回る結果となりました。

#### その他

当第2四半期累計期間の刊行点数は9点（前年同期比6点減）となりました。当ジャンルにおいては、特定ジャンルに依存しない幅広い分野における書籍刊行を通じた売上拡大を目的とし、ビジネス書を中心とした刊行を実施してまいりました。

しかしながら、刊行点数の減少を主因として、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を下回る結果となりました。

以上の活動の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,447,552千円（前年同期比8.8%増）、営業利益は625,854千円（同2.7%増）、経常利益は625,723千円（同2.7%増）、四半期純利益は394,205千円（同1.0%増）となりました。

## (2) 財政状態の分析

### 資産

当第2四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末と比較して36,758千円増加し、6,709,055千円となりました。これは主に、売掛金の回収に伴い現金及び預金が増加（前事業年度末比207,343千円増）したこと並びに仕掛品が増加（同25,207千円増）した一方で、売掛金が減少（同208,759千円減）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末と比較して989千円増加し、206,829千円となりました。これは主に、投資その他の資産が増加（同2,015千円増）したことによるものであります。

### 負債

当第2四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ388,034千円減少し、1,183,738千円となりました。これは主に、未払法人税等の減少（前事業年度末比217,256千円減）、返品調整引当金の減少（同71,849千円減）及び未払金の減少（同49,739千円減）によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ31,669千円増加し、69,200千円となりました。これは主に、運転資金の調達に伴う長期借入金の増加（同32,396千円増）によるものであります。

### 純資産

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ394,113千円増加し、5,662,947千円となりました。これは主に、四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加（前事業年度末比394,205千円増）によるものであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における、現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べ207,343千円増加し、4,420,963千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは189,352千円の収入（前年同期は486,979千円の収入）となりました。主な増加要因は、税引前四半期純利益の計上及び売上債権の減少によるものであります。また、主な減少要因は、法人税等の支払、返品調整引当金の減少及び未払金の減少によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは12,378千円の支出（前年同期は3,129千円の収入）となりました。これは主に、無形固定資産の取得によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは30,369千円の収入（前年同期は29,560千円の収入）となりました。増加要因は全て、運転資金の調達に伴う長期借入れによるものであります。また、主な減少要因は長期借入金の返済によるものであります。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

## 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,000,000
計	32,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (2019年11月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,687,400	9,687,400	東京証券取引所 (マザーズ)	権利内容に何ら限定のない当 社における標準となる株式で あり、単元株式数は100株で あります。
計	9,687,400	9,687,400	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	9,687,400	-	863,824	-	853,824

## (5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社オフィス梶本	東京都渋谷区桜丘町23番17号	3,200,000	33.03
梶本 雄介	東京都渋谷区	2,800,000	28.90
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	509,700	5.26
梶本 幸世	東京都渋谷区	330,800	3.41
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB U.K. (東京都港区六本木六丁目10番1号)	330,588	3.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	325,100	3.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	318,200	3.28
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	268,000	2.77
梶本 翔太郎	東京都渋谷区	240,000	2.48
梶本 遼次朗	東京都渋谷区	240,000	2.48
計	-	8,562,388	88.39

(注) 2019年8月29日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、アセットマネジメントOne株式会社が2019年8月22日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2019年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書(変更報告書)の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	株券等保有割合 (%)
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号	株式 997,300	10.29

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,685,600	96,856	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 1,700	-	-
発行済株式総数	9,687,400	-	-
総株主の議決権	-	96,856	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式52株が含まれております。

## 【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アルファポリス	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,213,620	4,420,963
売掛金	2,177,477	1,968,717
製品	169,952	179,574
仕掛品	96,427	121,635
その他	14,819	18,164
流動資産合計	6,672,297	6,709,055
固定資産		
有形固定資産	11,029	10,503
無形固定資産	36,828	36,328
投資その他の資産	157,982	159,998
固定資産合計	205,839	206,829
資産合計	6,878,137	6,915,885
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	59,036	41,604
1年内返済予定の長期借入金	29,656	28,448
未払金	469,506	419,766
未払法人税等	464,458	247,202
賞与引当金	27,602	31,852
返品調整引当金	399,171	327,322
その他	122,341	87,542
流動負債合計	1,571,772	1,183,738
固定負債		
長期借入金	34,988	67,384
その他	2,542	1,816
固定負債合計	37,530	69,200
負債合計	1,609,303	1,252,938
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	3,551,322	3,945,528
自己株式	137	229
株主資本合計	5,268,834	5,662,947
純資産合計	5,268,834	5,662,947
負債純資産合計	6,878,137	6,915,885

## (2)【四半期損益計算書】

## 【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	2,249,406	2,447,552
売上原価	669,253	639,728
売上総利益	1,580,152	1,807,823
返品調整引当金戻入額	433,097	399,171
返品調整引当金繰入額	396,590	327,322
差引売上総利益	1,616,658	1,879,672
販売費及び一般管理費	1,007,451	1,253,818
営業利益	609,207	625,854
営業外収益		
受取利息	14	17
その他	463	-
営業外収益合計	477	17
営業外費用		
支払利息	132	147
その他	-	1
営業外費用合計	132	148
経常利益	609,552	625,723
税引前四半期純利益	609,552	625,723
法人税等	219,438	231,517
四半期純利益	390,113	394,205

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	609,552	625,723
減価償却費	11,378	11,388
賞与引当金の増減額(は減少)	7,104	4,249
返品調整引当金の増減額(は減少)	36,506	71,849
受取利息及び受取配当金	14	17
支払利息	132	147
売上債権の増減額(は増加)	86,229	208,759
たな卸資産の増減額(は増加)	37,247	34,829
仕入債務の増減額(は減少)	7,570	17,432
未払金の増減額(は減少)	4,649	49,739
その他	35,476	45,256
小計	588,022	631,142
利息及び配当金の受取額	14	17
利息の支払額	132	147
法人税等の支払額	100,924	441,660
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>486,979</b>	<b>189,352</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	-	1,123
無形固定資産の取得による支出	-	9,239
出資金の回収による収入	3,129	1,637
敷金及び保証金の差入による支出	-	3,652
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,129</b>	<b>12,378</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	50,000	50,000
長期借入金の返済による支出	19,713	18,812
ファイナンス・リース債務の返済による支出	726	726
自己株式の取得による支出	-	92
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>29,560</b>	<b>30,369</b>
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	519,670	207,343
現金及び現金同等物の期首残高	3,152,938	4,213,620
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,672,608	4,420,963

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
販売手数料	691,644千円	801,321千円
賞与引当金繰入額	12,293	22,122

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	3,672,608千円	4,420,963千円
現金及び現金同等物	3,672,608	4,420,963

(持分法損益等)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
関連会社に対する投資の金額	20,400千円	20,400千円
持分法を適用した場合の投資の金額	27,297	17,579

  

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
持分法を適用した場合の投資利益 又は投資損失( )の金額	3,513千円	9,717千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	40.27円	40.69円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	390,113	394,205
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	390,113	394,205
普通株式の期中平均株式数(株)	9,687,280	9,687,271

(注)1. 当社は、2018年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額及び普通株式の期中平均株式数を算定しております。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月8日

株式会社アルファポリス  
取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員 公認会計士 中野敦夫 印  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 三浦貴司 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アルファポリスの2019年4月1日から2020年3月31日までの第20期事業年度の第2四半期会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アルファポリスの2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。